

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 華陽フロンティア高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年10月20日(日) 10:00~12:00
- 3 開催場所 華陽フロンティア高等学校 仮設校舎管理棟通信制第2職員室
開催にあたり、委員による授業(スクーリング)参観を実施した
- 4 参加者

会長	安田 和夫	岐阜聖徳学園大学教育学部 教授
副会長	廣瀬 富久夫	本校同窓会 会長(欠席)
委員	臼井 悟	鶴自治会連合会 会長
	東山 志津香	本校校友会 会長
	菱沼 三佳	本校PTA 会長
	南谷 東子	人権擁護委員
	吉井 貴子	地域創生キャリアプランナー
学校側	大和谷 淳	校長
	野田 美奈子	副校長
	有田 美穂	事務部長
	辻 昌宏	教頭(定時制課程)
	野田 潤哉	教頭(通信制課程)
	小久江 貴子	教務主任(通信制課程)
	渡邊 友也	生徒指導部長(通信制課程)
	後藤 尋史	進路渉外部長(通信制課程)

5 会議の概要(協議事項)

○授業指導(スクーリング)参観(通信制課程)

(1) 学校評価アンケート

① 定時制課程(生徒・保護者、学校運営協議会委員) ②通信制課程(生徒・保護者)

意見1: 定時制の質問項目「体罰やハラスメントはない」について、回答に否定の意見が8%ある。生徒は嫌な気持ちになった経験があるのか、また、学校は把握しているのか。
⇒現在、生徒からの申し出はない。年に数回、体罰やハラスメントについてアンケート調査を行っている。その結果も注視していきながら、日ごろから、教職員と生徒の対話を大切にしていきたい。

(2) スクール・ミッション(案)について

① 定時制課程 ② 通信制課程

意見1: 定時制、通信制とも、「多様なニーズに応える学校として」という共通部分が適切

である。「再チャレンジ」という言葉は、失敗したのもう一度という捉え方もあるので、使わない方がよい。「多様なニーズに応える」という言葉は、生徒一人一人を大切にしているという意味が込められているのでよい。今後は、本校が第一志望として選ばれる学校であるべきなので、「多様なニーズに応える学校」を強調してほしい。

意見2：シンプルにまとめてあるので、大事にしたい点が分かりやすい構成になっている。

意見3：通信制案について、「将来の地域の産業を支える人材」は社会に組み込まれていく印象があるが、「社会的・職業的に自立した人材」は、生徒自身が主役であり、自分が主人公という主体的な印象が強調されるので「社会的・職業的に自立した人材」の方がよい。

○本校の教育活動について

意見1：授業参観では、委員や教職員が教室に入ってきて、動揺することなく静かに授業を受けていた。どの教室も落ち着いた雰囲気の中で生徒は授業を受けている。

意見2：2年前に授業を参観したことがあり、その時は、教員から生徒へ一方通行の授業という印象があった。本日の授業を見て、生徒からのレスポンスは少ないけれど、教員が明るい雰囲気を作ろうと努力している姿が見られた。

意見3：授業のプレゼンテーションの文字は、UDフォントで統一されており、分かりやすい。板書の文字の色は、視覚に障害（弱視、視覚異常）がある生徒にとって、赤色と青色の文字が読み取りづらいので、ユニバーサルデザイン的な観点で考えると検討が必要。対処法として、例えばハイライトをつける方法がある。少しずつユニバーサルデザイン的なノウハウを蓄えるとよい。

意見4：教員の授業での声量がちょうどよい。大きすぎると生徒のつぶやきの声が拾えないので、今の状態がベストである。表情豊かに話している教員が多い。また、教材は一人一人が作成するより、できるだけ教科内で共有することで、業務の軽減や教員同士の研修にもなる。

意見5：新校舎がまもなく完成するが、生徒や教職員が使いやすいよう、今後のために、今、できることをやっていくべきだ。

意見6：新校舎の内覧会はあるのか。

⇒ 現在、日程調整中であるが、地元の自治会に対して実施する予定である。

意見7：「華フロ café」はすばらしい取組みである。来年度以降もぜひ継続してほしい。協力できることがあれば、ぜひ運営に協力したい。

意見8：「華フロ café」は定員40名と示されているが、中学校へどのように周知しているのか。

⇒ 岐阜地区の全中学校へチラシを配布している。

6 会議のまとめ

- ・学校評価アンケート結果に基づいて意見交換を行った。後期の教育活動に生かしていきたい。
- ・スクール・ミッション（案）について、意見交換を行った。これらの意見を踏まえ、案を修正していきたい。
- ・本校の教育活動に寄せる期待や要望を多く聴くことができる貴重な機会となった。
- ・次回は、本年度の反省と次年度への取組みについて、意見や提言を集約する予定である。